

学習スタイルの向上・改善を目指した 学生と図書館職員の協働による実践の成果と課題

片山裕之¹⁾、枝川恵理²⁾、上村菜月¹⁾、佐々木奈三江³⁾、亀岡由佳³⁾、岩野宏治³⁾、吉田 博⁴⁾

- 1) 徳島大学工学部 2) 徳島大学総合科学部
3) 徳島大学附属図書館 4) 徳島大学総合教育センター

1. はじめに

近年の大学教育においては、学生の能動的学習の促進が強く叫ばれており、教育改革の一環として学習環境の整備が課題の1つとされている。このような背景の中で、大学図書館の役割が大きく変わりつつある。これまでの大学図書館では、研究支援機能の強化に重点を置いてきたが、近年では学習・教育支援機能の強化についても検討されるようになった¹⁾。具体的な取り組みの1つとして、大学図書館にラーニング・コモンズを設置し、専任スタッフを配置して、学習相談やラーニングスキル教育を展開することで、学生の能動的学習を包括的に支援する事例が挙げられる²⁾。

徳島大学附属図書館においてもラーニング・コモンズを設置し、学生と図書館職員が協働して、学生の能動的学習を促進するための実践を行っている³⁾。本発表は、これらの取り組みを行う「学びサポート企画部」の活動と実績を紹介するとともに、現状における成果と課題、今後の展望について明らかにする。

2. 学びサポート企画部

学びサポート企画部は、徳島大学のサポート系サークルに登録している学生サークルである。活動理念は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」であり、学生3名と助言指導に当たる図書館職員3名、総合教育センターの教員1名で構成されている(2014年11月現在)。附属図書館から支援を受けながら、学習相談サービスの運営や学習関連のイベントを企画・実施している。

3. 学びサポート企画部の活動と実績

学びサポート企画部は、学生の自主・主体のもと、毎週実施しているミーティングにおいて、学習相談やイベントの企画などの計画を立てており、教職員は専ら学生の支援にあたっている。以下に、学びサポート企画部の活動と実績の概略のみを紹介する。より詳細な内容やデータ等は発表の際に示す。

(1) Study Support Space (SSS)

SSSは学生の学習に関する相談に対してアドバイザーが対応する取り組みで、2013年4月より実施している。アドバイザーは教員11名、図書館職員1名、大学院生5名、学部学生2名の計19名(2014年11月現在)が登録している。SSS時間割(図1)に合わせて附属図書館本館1階のピア・サポートルームにて待機し、訪れた学生の相談に対応する。SSSを開設して以降、授業期間中の平日は毎日実施し、2014年9月末時点までの累計相談者数は532名であった。学年・学部別の相談者数は表1の通りである。相談内容は、①学習に関する質問等の学習相談が334件(65%)、②進路や課外活動等の学習内容以外の相談が119件(22%)、③その他の内容が79件(13%)であった。このうち、学習相談の内容の内訳は図2の通りである。これらのデータから、SSSは主に初年次学生の理系科目に関する相談が多く、徳島大学生の理系基礎科目における不明点を解消する場として機能していると推察できる。

(2) レポートの書き方講座

レポートの書き方講座は、「学生がレポートの書き方に関する基本的な知識を習得すること」を目的とした講習会である。4月21日、23日の2日間、それぞれ1時間程度実施し、累計参加者数

は 29 名であった（内訳：1 年生 24 名、2 年生 2 名、3 年生 2 名、4 年生 1 名）。終了後に実施した参加者アンケートからは、レポートの書き方について理解できたという意見が多く得られ、本企画に対する満足度は高いことが伺えた。また、自由記述からはレポートの作成や大学での学習に対する動機づけに繋がったという意見も得られた。

(3) 先生のコバナシ

先生のコバナシは、「大学で行われている“研究”について、内容や考え方、教員の熱意などを学生が知ることで、大学における学習や研究に対する動機づけを行うこと」を目的に実施したイベントである。図 3 のように各分野の教員が 30 分から 1 時間程度の時間で、自身の研究内容や研究に対する思いを語り、参加者間で意見交換を行った。6 月 30 日～7 月 4 日の 5 日間実施し、累計参加者数は 61 名であった。終了後に実施した参加者アンケートからは、知らない分野の話が聞けて面白かった、教員の研究に対する思いを知ることができた、会場の雰囲気固くなかったので楽しかったという意見が挙げられた。

4. まとめ

以上の結果より、学びサポート企画部の活動は、学習に関する不明点や疑問点を解消すること、学習や研究に対する動機づけを行うことにおいて、貢献していると考えられる。しかし、SSS に訪れる学生や企画に参加する学生は多いとは言えず、徳島大学における学習支援として十分に機能を果たすためには、企画の質の向上、広報面の強化、支援体制の充実、正課教育との関連付けなどの課題が残されている。

参考文献

- 1) 長澤多代; 主体的な学びを支える大学図書館の学修・教育支援機能, 京都大学高等教育研究, 19, 99-110, 2013.
- 2) 井下理; 学習環境としてのラーニング・コモンズ, IDE 現代の高等教育, 556, 4-10, 2013.
- 3) 吉田博・佐々木奈三江・亀岡由佳・枝川恵理・斉藤くるみ; 大学図書館で実施する学習支援の成果と課題, 大学教育研究ジャーナル, 11, 26-37, 2013.

表 1 学年・学部別相談者数 (人)

	総合科学部	工学部	医学部	歯学部	薬学部	合計
1 年	59	130	50	46	2	287
2 年	43	24	0	0	0	67
3 年	27	21	5	0	0	53
4 年	14	14	2	0	0	30
院生	5	18	0	0	0	23
合計	148	207	57	46	2	460

※所属・学年が不明な相談者、または教職員・社会人は 72 名であり、上記の 460 名と合わせて 532 名である。

SSS 学習支援内容・アドバイザー (10・11月)						2014 年 10 月 16 日現在
時間帯	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	
14:00	物理学・その他何でも 小山 晋之 先生	レポート翻訳, Word, Excel, PPT 金西 計英 先生			数学・情報・中国語・電気電子 生 轟 さん	
15:00	数学 大沼 正樹 先生	数学・情報・中国語・電気電子 生 轟 さん	レポートの書き方 法則の紹介 出口 桜子 さん	Word, Excel, PPT の使い方 林 琳 さん	心理学 松浦 可苗 さん	
16:00	物理学・レポートの書き方 齊藤 隆仁 先生	Word, Excel, PPT の使い方 林 琳 さん	社会科学のレポート 久保 宏和 さん	英会話 佐藤 周平 さん	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生	
17:00	英語・留学相談 福田 STEVE 先生	数学 大淵 朗 先生	文献の探し方 佐々木奈三江 さん	物理学・天文学・レポートの書き方 古屋 玲 先生	化学 森野 俊広 先生	
18:00	英語学習・留学相談 坂田 浩 先生		物理学 日置 善郎 先生	生物学・化学・情報・情報 佐藤 高明 先生 濱田 由衣 さん		
19:00						

図 1 SSS 時間割

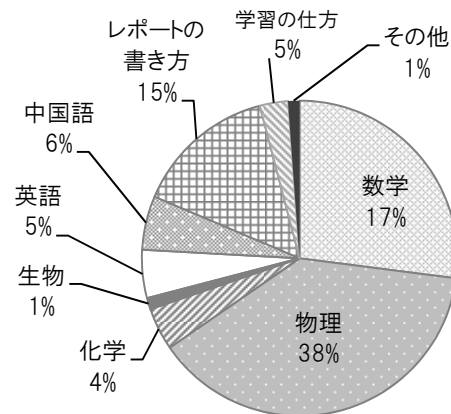


図 2 学習相談内容の内訳 (N=334)



図 3 先生のコバナシ (チラシ・様子)